

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学会
Publication year	1992
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.65, No.2 (1992. 2) ,p.5- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	神谷不二教授退職記念号
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19920228-0005">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19920228-0005</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 序

神谷不二先生は新設の東洋英和女学院大学教授として赴任されるため、平成三年三月をもって選定年で後退職になった。昭和四十五年四月に大阪市立大学より転じて慶應義塾大学法学部の教授に就任されて以来、御在職の間は二十一年の長きにわたる。この間、先生は、学部、大学院を通じて国際政治学の講義、演習と特殊研究、さらにゼミナールを担当してこられた。

よく知られているように、神谷先生は戦後の日本における国際政治研究のパイオニアのひとりであられる。神谷先生に私が初めてお目にかかったのは、私が博士課程に進んで、国際政治学御担当の内山正熊先生の副手となった最初の京都の学会のことであった。その日の学会の散会したあと内山先生は五、六人の新進国際政治学者と近くの喫茶店に入られたが、その席で神谷先生にご紹介を頂いた。その時の童顔の先生のお顔を今でもはっきり覚えていて、ある日、当時若手教授の中心であった石川忠雄塾長に呼ばれ、インブリーディングを排し、政治学科の活性化をはかるために神谷不二教授を招へいと思うが、君たち若い者の意見はどうだというお尋ねがあった。大賛成です、神谷先生にかぎらず何人かそれぞれの領域のホープをお招き頂いて政治学科の飛躍をはかるべきですと答えたことを覚えてゐる。

序

先生の招へいは大成功であった。先生のゼミには多くの政治学科の俊秀が集まり、大学院でも多くの弟子を育てられた。先生の御講義は、聞くところによると、随所に寸鉄人を刺すようなコメントが加えられ、時として思わぬ脱線をもって学生を喜ばされる、反面、受講については厳しい自律性を求められ、「講義中ノ入室ヲ禁ズ」の貼り紙が怠惰に慣れた学生を驚かせ、鮮烈な印象を与えたということである。

神谷先生はまた国の内外で幅広く言論活動に従事され、国際会議や政府委員会で現実政策に関してもさまざまな提言を重ねてこられた。また学会活動では日本国際政治学会、国際法学会、平和安全保障研究所、日本国際問題研究所、立法政策研究センターの理事や韓国国際関係研究所顧問、日米欧三極委員会委員を務められ、文部省教科用図書検定調査審議会委員の要職にも就いておられる。

神谷先生はすでに新設間もない大学で学問への情熱をますます旺盛にされ、門下生を叱咤激励して研究をすすめておられる。神谷先生の将来にわたる御健康と一層の御活躍を祈念するとともに、先生と研究・教育活動を共にし、あるいはその御指導の下に育った同僚ならびに後進の寄稿するこの論文集を捧げることによって、多年の慶應義塾と慶應義塾大学法学部に対する先生の御貢献に感謝の意を表したい。

平成三年十一月

法学部長 堀 江 湛